

外出は病院巡り今日を終え

坪郷 英美子

年令としだから運転止めると又云われ

重宗 隆治

物価高割り引きシールに手が伸びる

山本 幸恵

物忘れまだ早いよと言い聞かす

磯部 佳子

願いごと無病息災ほかになし

佐藤 哲夫

俳句

ふるさとはななすなに続く線路や花薺

林 保江

菜箸の切るやうかんたまこに溶く寒卵

阿部 明美

手作りらとメモ書き添へて雛あられ

春吉 智子

もうらいいよ菜畑らに響く子等の声

賤間 星

恙つつがな無く暮らす日々をと初日記

村瀧 富子

短歌

朝食後買いに行きたい春野菜食器を洗う水は虹色

山口 正子

雨が雪に変わった夜の閑かさは会いたき人の声蘇える

賤間由美子

亡き母の折り紙の雛に桃の花供へて偲ぶ雛祭りの夜

藤井 美智子

六匹の野良の猫たち顔覚へ婆の姿に寄り集まりて

川本 禮子

冬至すぎわづかながらも日脚のぶ春の種まき選別始む

江川 詳子

自由律俳句

走ったり歩いたり
が彼方に消えた

岡村 裕司

明日があるから
伸びる豆苗

とうみょう

佐川 智英実

夢 多い孫と
未来を語る

松下 満江

ぎこちない夫の
ゴム通し

西岡 悦子

孫の背に負けた
よろこび
今年の春

叶屋 香代子